

日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領等に則し、人権尊重の精神を基調として心身共に健康で、知性と感性に富み、生涯を通じて主体的に学び続け、国際社会に貢献できる人間性豊かな生徒の基本的資質を養う。また、自己肯定感や自己実現の獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識の協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させる。



教育目標

◎未来社会への知性
○人・地球との共生
○心身共に健康

〈学び続ける人〉
〈より高い人間性をめざす人〉
〈健康で生命を大切にす人〉
知徳体

【理念】最上位目標である学校教育目標に帰結する教育活動を地域とともに実現する学校

第五中学校グループ(第五中、第一小、第四小)の共通目標

「より高い人間性をめざす人・学び続ける人・健康で生命を大切にす人」の実現を教職員の創意と工夫により合同・一体となった学習活動の取り組みや学校行事等を起点にさらなる小中一貫教育の充実を図る。

学校運営協議会の目標「つなぐ」

「学校が核」となり「地域」をつなぐ。固くつながれた「地域」が主体となり「家庭」を支え、「学校」を支え、「子ども」を育てる。

柱1 知

学力定着プロジェクトチームを要とし、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。各教科等の特質に応じて、生徒の対話を中心とした言語活動を充実させる。基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題解決するための思考力・判断力・表現力、主体的に取り組む態度を養う。

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
学びの共同体としての授業デザインの実施
- 生徒一人ひとりの学習定着度の確実な把握と適切な指導と支援、適正で信頼される評価
- 生徒が身に付けた知識及び技能を活用し、思考力・判断力・表現力できる課題解決型の授業、学校行事へ改善
- 個別最適な学びの趣旨を踏まえ、ドリル型コンテンツの継続活用と英語スピーキングテストの積極活用を通じた学力の定着

柱2 徳

自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成することをめざす。

- 人権尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、人が互いに尊重し調和と協調、協働して社会で生きる上で求められる規範意識を醸成
- 人間としてよりよく生きる上で大切なことは何か、自分はどのように生きるべきか自ら考え、自らの生き方を探求する力の育成
- 主体的に考え、議論する道徳の授業実践
- いじめを許さない学校組織と学校いじめ対策委員会の機能強化、いじめをさせない、しない先行的な指導の実施
- 八王子市不登校総合対策「つながるプラン」の趣旨を踏まえた不登校対応の強化と実践
- 小中一貫教育と特別支援教育の取り組みの深化

柱3 体

「生きる力」を支える重要な要素の体力や健康の維持を図るため、運動を通して体力を養い、健康を維持する食育を通して望ましい食習慣や健康的な生活習慣を身に付けさせる。また、生徒の生命を脅かす災害や性暴力等の危機から身を守る力を養う。

- 給食センター元横山と連携した食育の充実と基本的な生活習慣の定着
- 危機回避能力、当事者意識をもった地域防災意識の向上、SOSの出し方、「生命(いのち)の安全教育」等の深化
- 教育相談主任を要とした組織的な教育相談体制の充実
- スクールカウンセラー4名体制における相談体制の連携と協力～横ぐしを通じた連携と一体的な教育相談体制の実装～
- 部活動改革の確実な実施と学校部活動と地域クラブの活動を連携させた、生涯スポーツ等の充実

【学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの3つの視点】

- 学校の教育目標を踏まえ教科横断的な視点でカリキュラムの配列を図る
- 教育課程を編成・実施し評価して改善を図るPDCAサイクルを確立する
- 教育活動に必要な人的・物的資源等を地域など外部の資源を含めて活用する。

カリキュラム・マネジメントを行うためには、目的に最上である第五中学校の教育目標を教職員、生徒等が教育目標を自分事として捉え、自分の言葉で説明できることが必要である。そのため、教育活動全てに教育目標を達成するための活動を取り入れていく必要がある。